

## 令和6年度 第1回諫早市認知症対策推進会議要旨

1. 日時：令和6年5月23日（木） 18：55～20：05

2. 場所：健康福祉センター 2階 第1研修室

3. 内容

### (1) 報告

#### ①認知症初期集中支援チームの活動報告について

・資料1を用いて説明。令和5年度の支援対象者概要について報告。

【意見など】個別の事例についての質疑応答。

#### ②オレンジセーフティネット（OSN）の運用状況について

・資料2を用いて説明。有喜地区SOS模擬訓練「搜索編」を動画で紹介。

【意見など】

・搜索対象者として初期集中支援チーム等で周知してはどうか。

→見守りペンダント利用者や徘徊対象者への案内、地域ケア会議での紹介等を実施。

・専門職向け研修会で即時登録できるような資料を作成してはどうか。

→長崎県介護支援専門員協会諫早支部の総会にて操作実演を行った。今後とも専門職向けに案内していきたい。

・地区別の協力隊数が分かる資料があれば課題が分かりやすい。

→対応予定。

・協力隊として登録したがまだ搜索依頼がないため、各地で模擬訓練をした方が良いのでは。

→要検討。

#### ③認知症地域支援推進員の配置について

・資料2を用いて説明。推進員の増員と各センターへ配置を報告。

【意見など】各包括支援センターの圏域について質疑応答。

### (2) 意見交換

『住民主体で認知症SOS模擬訓練を実施することの効果や今後市内に広げていくにあたっての留意点・工夫点について』

### 【効果について】

- ・自分の地区を知ることができる。(危険箇所の把握、住民の顔など)
- ・認知症を隠さなくても良い、オープンな地域に繋がる。
- ・声掛けは勇気が必要。訓練で自信が付き、実際の対応につながる。
- ・訓練に参加される方は、地域で動ける方だと思う。訓練だけで終わるのではなく、地域での事例を共有して、見守ってもらえると良いのではないかな。

### 【留意点・工夫点について】

- ・地域によって状況が異なる。地域の実情に合わせる必要がある。
- ・認知症の方への対応方法、声掛けの仕方など事例を集めておく。
- ・SOS 模擬訓練や認知症サポーター養成講座など単発では忘れてしまうので、繰り返し実施することで理解も深まり、自信にもつながる。
- ・訓練実施後の振り返りが必要。訓練を通じた感想、問題点などをあげる。
- ・今後、各地で SOS 模擬訓練を実施していく為にも、ノウハウの蓄積が必要。
- ・住民主体でやるとなれば、ある程度ガイダンスが必要。
- ・認知症サポーター養成講座やオレンジセーフティネット以外に、SOS 模擬訓練と絡めることが出来るものはないか。(ケアパス周知時は地域の事業所も一緒に紹介していた)
- ・一緒に協力してくれる事業所の協力が必要。
- ・訓練を地域でやってほしいという声が多くある。語らん場やデイサービスや訪問看護などの団体に対して研修会などが出来ればいい。
- ・語らん場や老人会で「認知症」のワードが出たら SOS 模擬訓練の紹介を行う。

### 【参加者について】

- ・小中高生など若い世代を巻き込んで、楽しくゲーム感覚で出来ればいい。学生の頃から『認知症』をもっと身近に感じて学習してほしい。
- ・参加者は普段から地域で活動している方がメインになると考えられる。子どもをどう巻き込むか。働く世代は平日は難しい。
- ・若い世代にはネットワークがないので、どうやって若い世代に周知するか。
- ・メディアでの広報(さんさんテレビ)や長期休暇を利用するのはどうか。参加しやすい時期や時間を検討する必要ある。
- ・スマートフォンを持っている人が多い世代の参加で、オレンジセーフティネットの登録にもつながる。